（様式2）

令和7年度　施設指定管理者
モニタリングレポート（年次評価報告書）

施 設 名	**北部児童館**
指定管理者名	株式会社日本保育サービス
指 定 期 間	令和7年 4月 1日 ～ 令和12年 3月 31日 （3期1年目）
所 管 課	子育て支援課

1　業務履行の確認・評価

	年次評価
適正な施設の運営・維持管理が行われているか。	A

【施設の運営に関する基本的事項】
配置基準を満たす人員体制を維持し、緊急時対応訓練や事故対応マニュアルを整備するなど、安定運営に努めている。本部支援を十分活用し、職員間の連携を図っている。

【自主事業に関する事項】
中高生タイムを含む各種事業について、必要な人員体制を確保し、適切に運営している。中高生向けの周知やドッジボールタイム、児童館まつり、親子リトミック等を計画的に実施し、各事業を着実かつ適切に履行している。

【施設の維持管理業務に関する事項】
館内の安全点検や衛生管理を適切に行い、設備や備品を適切に管理し、施設環境を良好に維持している。

2　サービスの質に関する評価

	年次評価
提供するサービスの水準が確保されているか。 また、サービスの向上が図られていたか。	A

【利用者アンケート（満足度調査）に関する事項】
＜調査の概要＞
・令和8年1～2月に利用者アンケートを実施。
＜調査結果の概要＞
職員の対応、児童館の楽しさ、職員とのコミュニケーション、利用しやすさ、子どもの楽しそうな様子、遊びの空間、清掃状況において肯定的な評価が多くを占めている。特に「職員は気軽に話ができるか」「子どもは楽しそうに遊んでいたか」「遊びの空間は好ましいか」の項目では全員が肯定的な回答をしている。一方で、親同士の交流機会や子育て相談の利用は「わからない」「いいえ」の回答が見られた。
【自主事業に関する事項】
中高生の利用促進を図る取組や、子ども主体のドローンクラブ、ドッジボールタイム、親子リトミック等を実施している。子どもの自主性を尊重した活動に加え、地域講師の活用や5館合同事業など、施設間の連携も生かし、興味やニーズを踏まえた幅広い事業内容の充実が図られている。

【サービス水準や利用環境に関する事項】
利用者アンケートを踏まえ、未就学児向けイベントを土曜日に実施するなど、ニーズに応じた柔軟な対応を行っている。性暴力防止に向けた研修や誓約書、対応フローを整備するとともに、利用者情報を共有し、安心な利用環境の確保等が図られていると評価できる。

3　サービス提供の継続性・安定性に関する評価

健全な収支状況のもと、継続的・安定的にサービスが提供されているか。 また、団体の経営状況は健全か。	年次評価 A

【施設の収支状況に関する事項】
・指定管理料（令和7年度決算額14,500,000円）の中で、事業収支は黒字になっており、継続的にサービスを提供することができている。

【団体の経営状況に関する事項】　　中央・北部・南部・西部・ひまわり児童館　共通事項
（株）日本保育サービスの経営状況の分析

・第22期（2025年4月1日～2026年3月31日）の損益計算書では、売上高は前期より増加している。

・営業利益、当期純利益金額ともに前期より増加している。

・貸借対照表の純資産合計からも財務内容は健全であり、この3年間において、売上高、当期純利益とも毎年向上しており、順調な経営状態であるといえる。

総合評価	A	【審査委員会コメント】 館長が近隣中学校へ出向いて広報を行うなど、積極的な働きかけにより中学生の利用者数を増加させた点は高く評価できる。また、中高生タイムでの職員2名体制や学習環境の整備に加え、中高生が館内で楽しく過ごせるようさまざまな工夫を凝らしている。緊急時対応訓練など、安全・安心な利用環境の確保にも努めている。さらに、子どもへの性暴力防止に向けた誓約書や対応フロー、統一マニュアルの整備、不適切育成に関する研修を継続するとともに、アンケートを踏まえた事業や利用者へのきめ細かな対応も行っている。ドローンクラブやeスポーツなど、他館にはない特色ある企画を工夫して実施するとともに、親子リトミックや5館合同の児童館まつりなど、多様な事業を展開し、質の高いサービスが提供されていると評価できる。

【年次評価】　　（評価基準）
- S（優　良）：区分評価が全てA以上、かつSが過半数以上。
- A（良　好）：区分評価が全てA以上。
- B（課題あり）：区分評価にBがあった。
- C（要改善）：区分評価にCがあった。

【総合評価】　　（評価基準）
- S（優　良）：市の要求水準を上回るサービスが提供されている。
- A（良　好）：市の要求水準に沿ったサービスが提供されている。
- B（課題あり）：サービスの内容の一部に課題がある。
- C（要改善）：サービスの内容に改善が必要である。